（第２号様式）（用紙日本工業規格Ａ３横長型）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和５年４月７日

県立三浦初声高等学校長

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月 24 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の主体的に学ぶ意欲を高め、基礎学力を充実し、確かな学力の定着を図る。 ②学科併置の特色を活かし、学びの楽しさを実感できる学習活動を展開する。	①ＩＣＴ活用をより一層定着させることにより生徒が主体的に学ぶ意欲を高め基礎学力を定着させる。 ②学科併置の特色を活かし,より一層充実した教育活動を展開する。	①一人一台端末の導入も含め、全校生徒を対象に基礎学力充実を目指した学びのスタイルを確立する。 ②学科併置の特色を意識した授業展開の確立を目指す。	①全校生徒を対象にＩＣＴを活用した学びのスタイルを教育活動の中で確立し基礎学力を育成することができたか。 ②学科併置の特色を活かして工夫された教育活動を実践できたか。	①夏季休業中に研修会を開催し ICT を活用するための基盤作りを進めた。 ②一部の科目及び総合的な探究の時間で学科の壁を越えた学習活動を展開している。	①大型モニター、プロジェクターを整備することで ICT の活用は深まると考えられる。 ② 学習内容を教材化する際に本校の特色を活かした再構築を心がける。	①ICT の利活用について学校全体で研修会を定期的に実施したり、大型モニターを整備するなど、着実に推進を図っている。 ②学科の壁を越えた学習活動を展開していることは、併置校の特色が出ている。	①ICT の利活用については学校全体で取り組み成果を上げてきている。 職員全体のスキルを上げることが課題である。 ②学科併置の特色を生かした教育活動について一部の科目及び総合的な探求の時間等で学科を超えた学習活動が展開できた。より多くの科目での相互交流についての検討が必要である。	①一人一台端末のより一層の活用に向けた研修会の実施とモニター等の視聴覚機器の計画的整備により、個別最適な学びの支援を充実させる。 ②学科併置の特色を活かして工夫された教育活動の実践に向けてより一層取り組む。
2	生徒指導・支援	①基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を図り、支援の視点を生かした生活指導に取り組む。 ②幅広い教育活動の機会を活用し、コミュニケーション能力及び自己有用感の育成を図る。	①問題行動の未然防止と発生時とその後の対応の体制を整える。 ②日常の感染防止対策実践の継続とともに、新型コロナ対策に対応した行事等を通して、コミュニケーション能力及び自己有用感を向上させる。	①生徒の規範意識の向上を図り、指導と支援の双方から生活指導を行う。 ②感染防止対策を徹底し、コロナ禍にも対応できる、行事等を立案し、生徒が主体的に参加、行動できる機会を作る。	①指導と支援の連携により、問題行動への速やかな対応ができたか。 ②感染防止対策を十分に実施できたか。 行事への取り組みを通して、生徒の充実感、主体性・実行力・コミュニケーション能力などの向上を確認できたか。	①校内外の巡回、生徒や保護者の対話を通して問題行動の減少に努めた ②健康観察のペーパーレス化を行い、保護者参加の文化祭を企画、実行し、新たに体育祭を企画、実行することができた。	①昨年と比較し、指導件数は約 40 件減少した。継続的に規範意識を育てる指導と支援を行っていく。 ②引き続き感染対策を行うとともに、新たな行事を通して生徒の主体性をはぐくむ。	①指導件数の減少は評価できる。今後も支援を意識した細かな指導をお願いしたい。 ②感染防止対策を行いながら新規に体育祭を実施するなど、学校行事の活性化が見られた。	①指導と支援の連携により、問題行動への速やかな対応ができてきている。今後も支援的な対応等を含めた指導が課題である。 ②健康観察のペーパーレス化の取組と感染防止対策を行い、体育祭の実施など、学校行事の活性化が図れた。今後は、生徒主体の取組を充実させることが課題である。	①生徒理解を深める校内研修を定期的に行い、支援を意識した指導の充実に結び付けていく。 ②学校行事を通して生徒の人間的な伸長が図れるように教職員の指導・支援体制を構築する。
3	進路指導・支援	①地域に愛着を持ち、地域で活躍する人材の育成に向けて、生徒が自ら目標を設定し主体的に取り組むことができる進路指導の充実を図る。	①校種間を連携したキャリアパスポートの活用やインターンシップ等の職業体験、講演会等による３年間継続した進路指導計画を構築する。	①キャリアパスポートを利用した各年次の計画的な進路探究を充実させる。 また、３年間を見通した進路指導計画を再策定し、希望する進路実現へと繋げる。	①各年次のキャリアパスポートを活用した進路探究計画の実施状況。 ３年間の進路計画表の再策定及び計画の実施状況の把握とアンケートによる定着の度合いの確認。	①キャリアパスポートを利用しながら振り返りを行い、各年次ごとに年間を通じた計画的なキャリア支援を行うことができた。	①３年間を通して一貫性のあるキャリア支援の計画を構築しつつ、さらなる検討を行う必要である。年２回実施した２年次進路アンケートを、全学年で実施する計画が必要である。	①キャリアパスポートの活用等、小、中学校からの引継ぎと、高校での新たなキャリアパスポートの作成により進路指導の充実に向けてよく取り組み成果を上げた。	①キャリアパスポート等を活用し、各年次ごとに年間を通じた計画的なキャリア支援を行い、進路意識を向上させることができた。進路意識の向上に加え、組織的な進路指導の充実が課題である。	①小、中学校のキャリアパスポート活用も含め、高校３年間を見通した継続的な進路指導計画の策定を引き続き行う。
4	地域等との協働	①地域の特性を理解し、地域とのかかわりを持ち貢献することで、自己有用感・自己肯定感や社会性を育む。 ②地域の教育力を教	①コロナ禍の中での地域貢献活動の実施の工夫や HP 等での情報発信を充実させ、地域の教育力を教育活動に活かす体制を構築する。	①地域連携活動として「産農人」プロジェクトの発展、充実を引き続き発信する。ホームページや ICT 等を活用した情報発信を通して、教	①地域貢献や地域連携活動の成果を広く発信するため、特にホームページの充実・改善による情報発信を通して、教育活動をアピールする	①「産農人」プロジェクトの活動を引き続きホームページで発信できた。地域連携活動成果の発信のため、特に HP の改善・充実につとめた。	①教育活動の成果アピールの発信のため、特にホームページの活用による効果的な情報発信の方法や充実に向けた模索を続けていく必要が	①ホームページの充実に向けてよく取り組んでいる。「産農人」プロジェクトの活動、学校行事、図書だより等がアップされ学校の様子がよ	①「産農人」プロジェクトの継続と学校内外の活動に関して、ホームページにより効果的な情報発信ができた。 ホームページへの	①校内外の情報発信の充実に向けて、コンテンツ管理システム（CMS）や SNS の操作研修会を行い、より多くの職員が情報発信にかかわる体制

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 24 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		育活動に活かす。		育活動の成果を広くアピールする。	ことができたか。		ある。	くわかるように取り組んでいる。	掲載までに時間をかけないようにするのが課題である。	を構築する。
5	学校管理 学校運営	①両キャンパスの環境や連絡・防災体制を整備し、安心安全で信頼される学校づくりをする。 ②生徒にとって生き方のモデルとなるようなワークライフバランスを充実させる働き方を実現させる。	①両キャンパスの避難訓練を同時実施により、問題点等の洗い出しを行い、災害体制作りを行う。 ②効率的な業務遂行に向け、計画性を重視した組織的な取組を実践し、勤務時間を意識した心身ともに健康で安全で安心な働き方を追求する。	①入江・和田の両キャンパスにおいて、同日・同時刻に発生した地震に対する避難訓練を行い、様々な状況把握等を行う。 ②業務内容の精選を図ると共に業務量の均等化や、効率的な業務の遂行等を意識し、ﾜｰｸﾗｲﾌﾊﾞﾗﾝｽの重要性の意識を高める。	①入江・和田両キャンパス間での連携が取れていたか。速やかな人員等の掌握ができていたか。 ②勤怠管理システムを活用し、長時間勤務の職員が少なくなったかを検証するとともに、職員の健康状態が向上したかを産業医の意見をもとに確認する。	①入江キャンパス内全学年一斉に地震及び津波に対する避難訓練を実施できた。また、火災避難訓練についても実施することができた。 ②時間外勤務の常態化を防ぐために、月に 2 回水曜日を定時退勤日と設定し、働き方改革に取り組んだ。効果は出てきている。	①入江・和田両キャンパスの避難訓練の同時実施及びその場合の連携に関する問題点の掌握を行う必要がある。 ②特定の職員の長時間勤務の傾向は相変わらずであるので、産業医面談等を含め、個別の対応をしていく。次年度も定時退勤日の取組は継続する。	①新型コロナ感染防止に努めながら、年 2 回の地震津波、火災に向けた避難訓練を実施できたことは評価できる。 ②定時退勤日の取組は評価できる。 教員の長時間勤務は社会問題になっているので、今後も偏りのない業務分担等に管理職を中心に努めてほしい。	①入江キャンパス内全学年同時の避難訓練の実施ができた。 入江・和田両キャンパスの避難訓練の同時実施に関しては、安全確認等の情報把握に関しての連携の在り方について検討する必要がある。 ②定時退勤日の実施により、働き方改革への意識が高まり、効果は出てきている。一部の教員に業務が集中するケースを解消することが課題である。	①大規模地震による津波対策等について、PTA や地域の住民、消防署と連携し、生徒の安全な避難についてより一層検討していく ②定時退勤日の取組は継続し、職員の業務分担等を見直し、業務の効率化と均等化を図る。